

第48回長久手市地域公共交通会議 議事録要旨

議 事 概 要	
会議の名称	第48回長久手市地域公共交通会議
開催日時	令和元年6月5日(水) 午後2時～午後4時
開催場所	長久手市西庁舎3階 研修室
出席者氏名	<p>15名中13名出席(五十音順)</p> <p>会長 松本 幸正            委員 天野 力            委員 石井 初美            委員 臼井 雅宏(代理出席)            委員 浦川 正            委員 上井 久仁彦            委員 加藤 正純            委員 葛原 唯一郎(代理出席)            委員 古賀 めぐみ            委員 安井 文規            委員 矢野 正彦            委員 横山 直樹(代理出席)            委員 吉積 正樹(代理出席)</p> <p>説明員</p> <p>(Nーバス事業者) 安心安全課長 南谷 学            同課長補佐 山際 裕行</p> <p>(定額乗合タクシー事業者)</p> <p>福祉部次長兼長寿課長 中野 智夫            同課長補佐 粕谷 庸介</p> <p>(事務局) 市長公室次長兼経営企画課長 横地 賢一            同課長補佐 森 延光            同主事 戸田 敬志            同主事 吉本 亜未</p>
欠席者氏名	委員 小林 裕之、樋口 恵一
傍聴者人数	4名
会議の公開・非公開	公 開
審議の概要	<p>1 議 題</p> <p>(1) 平成30年度長久手市地域公共交通会議事業報告及び決算報告について</p> <p>(2) 令和元年度長久手市地域公共交通会議事業計画(案)及び予算(案)について</p> <p>(3) 地域公共交通確保維持改善事業について</p> <p>(4) Nーバス年末試行運転について</p> <p>2 報 告</p> <p>(1) 高齢者等移動支援事業(定額乗合タクシー)の実証実験について</p>

	(2) Nーバスの利用実態調査の実施について (3) 公共交通応援隊活動予定について (4) 平成30年度市内公共交通の利用者実績について 3 意見交換 4 その他
--	--

## 1 議 事

- (1) 平成30年度長久手市地域公共交通会議事業報告及び決算報告について  
(資料1に基づき事務局より説明)

会長

この議題について意見はあるか。

(異議なし)

会長

この決算を承認いただけたということで進めさせていただく。

- (2) 令和元年度長久手市地域公共交通会議事業計画(案)及び予算(案)について  
(資料2に基づき事務局より説明)

会長

今年度実施事業について、前年策定した第2次長久手市地域公共交通網形成計画との整合性は取れているか。

事務局

第2次長久手市地域公共交通網形成計画において2019年度に実施・継続となっている事業(※)については全て今年度実施事業として盛り込まれている。資料2の1「Nーバスと乗合タクシーの役割分担と基本的な公共交通体系の検討」及び2「公共交通の見直し基準となる指標の検討」は計画事業の公共交通網の確保・維持に該当し、3「企業と連携した利用促進」は企業と連携した公共交通利用促進の展開に該当し、4「公共交通応援隊の活動支援」は市民参加型の利用促進の展開・継続と周知・広報活動の強化に該当する。

※資料3-3の8ページ参照

委員

公共交通応援隊のキッズイベントについて、子どもたちが公共交通に親しむ機会として大変良いイベントだと思う。しかしながら、去年は開催日が他の行事と重なったため例年よりも参加者が少なかった。開催日について、どのように検討しているのか、また周知方法についても確認したい。

事務局

資料7で説明させていただく。

<裏面へ>

会長

事業計画と予算について、意見はあるか。

(異議なし)

会長

承認いただいたということで進めさせていただく。

(3) 地域公共交通確保維持改善計画について

(資料3-1、3-2、3-3に基づき、愛知県及び事務局により説明)

委員

資料3-2二次評価の結果で指摘されている、土日の渋滞対策については運転手の労働基準が問題ないかどうか併せて確認いただきたい。

資料3-3の11ページの交通不便地域人口については平成27年度に申請をいただいている。しかしながら、長久手市は人口増加傾向にあるため、この先、交通不便地域から外れる可能性がある。人口の増減については注意が必要である。

会長

昨年度からGTF Sによって広域のバス検索が可能になった。遠方から来る人にはこのようなシステムを使って公共交通の利用促進を計ることが渋滞解消につながる。

会議に参加されている委員の皆様におかれましては、資料3-3の7ページ記載の目標値を達成するため協力をお願いします。

会長

補助金申請にあたっては基本算定式が公表されたのち、本概要を踏まえた計画の策定及び申請を事務局一任ということでよろしいか。

(異議なし)

会長

承認いただいたということで進めさせていただく。

(4) Nーバス年末試行運転について

(資料4に基づき、Nーバス事業者により説明)

会長

次回会議が1月になってしまうため、現段階での議題になるが、ダイヤ等が決まったら中部運輸局長への申請は事務局一任ということでよろしいか。

(異議なし)

会長

承認いただいたということで進めさせていただく。

## 2 報 告

(1) 高齢者等移動支援事業(定額乗合タクシー)の実証実験について

(資料5に基づき、定額乗合タクシー事業者により説明)

委員

モニターとしてもらった無料回数券は別の人に譲渡はできるのか。

長寿課

一般利用者・モニター・事業周知者のうちどの区分なのか色分けされたケースを渡し、登録した際には交付番号も手書きする。運転手はケースの色をもって回数券を利用できるか判別するため、モニター以外は使用できない仕組みになっている。

会長

モニターは何人であるか。

長寿課

180人を想定している。

委員

実証実験とは別にリハーサル期間を事前に設けると聞いているが、タクシー事業者の運賃違反にならないように適正なタクシー運賃の收受をお願いしたい。また、本格運行の前には既存交通とのすみ分けをした上で段階的な計画を立て慎重に進めてほしい。

<裏面へ>

会長

リハーサル期間はいつか。リハーサル期間内の運用条件、運賃はどうするのか。

長寿課

7月9日から7月19日の平日のみで9日間を予定している。運用条件は実証実験と同様で、利用者は無料となる。運賃については21条の運行ではないためタクシーの通常運賃で運行し市が負担する。

会長

事務局においても今後の本格運行に向けての手続き、プロセスは慎重に進めてほしい。

委員

料金を前年の500円から300円に下げた根拠は何か。

長寿課

名鉄バスの市内輸送の最高運賃が370円であることは承知したうえで、前回よりも対象者を絞ったため、それよりも低い300円に設定した。

会長

アンケートでは前回利用者のうち、67.6%が普段は他の公共交通を利用している。本来は定額乗合タクシーは公共交通を利用できない移動困難者が対象であるため、残りの32.4%の人に着目すべきである。その方々が運賃500円を高いと思っているのか、そこを見極める必要がある。ただ利用が増えただけでは意味がないため、公共交通を利用できない移動困難者の利用拡大につながる条件を今回の実証実験で見つけてほしい。

また、会議を通して事務局、事業者、市民とで情報を共有しながら、乗合タクシーだけで全てをまかなうようにするのではなく、複数の交通手段を使ってカバーできるようにし、移動困難者が気軽に外出できるような交通システムを、未来のために検討してほしい。

会長

定額乗合タクシーが普及した場合、免許返納につながるかどうかの意向も確認するのか。

委員

前年のアンケート項目にはなかったが、今年度はアンケートにおいて調査する。

(2) Nーバスの利用実態調査の実施について

(資料6に基づき、Nーバス事業者により説明)

委員

OD調査と利用者アンケートを同時に行うということだが、荷物を多く持っている人や子連れの方は手間だと思って回答することが難しいこともある。協力依頼のための粗品の配布は考えているか。

安心安全課

事前に調査等を行うことは周知するため、是非協力をお願いしたい。粗品については検討する。

委員

市民懇談会について、人が元々集まっている場所では開催しないのか。

安心安全課

資料には記載がないが必要に応じて検討していきたい。

会長

人が集まっている場所でのワークショップは難しいが、ワークショップをこれからするという宣伝はできる。また、市民懇談会を開催するときは、世代別の意見が聞けるように子育て世代の参加促進のため託児所の用意や子連れでも参加できるように配慮すると良い。

(3) 公共交通応援隊活動予定について

委員

前年の参加者が少なかった理由で日時ばかりに目がいつているが、エコモビというタイトルと内容が子どもには分かりにくかったこともあったと思われる。そのため、今回は分かりやすいタイトルに変更した。

会長

「ながくて のりもの フェスタ」というタイトルだとトヨタ博物館を連想するが、今後連携してイベントを開催してはどうか。あくまで提案です。

<裏面へ>

事務局

今のところ予定はないが参考にさせていただく。

(4) 平成30年市内公共交通の利用者実績について

(資料8-1、8-2、8-3に基づき、愛知高速交通㈱、名鉄バス㈱、Nーバス事業者より説明)

委員

横浜シーサイドラインの事故について、リニモとほぼ同様のシステムを使用している。シーサイドラインは人が乗車している状態で信号切替えをしている。

リニモでは藤が丘駅と八草駅で信号切替えをしているが、八草駅については人が降車してから切替えを行うため人身事故にはつながらない。藤が丘駅からはなみずき通駅については地下区間にあたりトンネルになっているため今までと同様に社員が添乗している。運転席に緊急停止ボタンがあるため、もし異常があった場合には対応することができる。事故原因が判明するまではこれまで以上に確認を徹底することとしている。

会長

会議の場で各機関で話し合い、連携して公共交通の利用促進を計っていきたい。Nーバスについては、ダイヤ改正直後のためこれからもよく観察していく必要がある。

事務局

長時間ありがとうございました。

今回は、来年1月の開催を予定しており、9月に実施予定のNーバスの利用実態調査結果及び乗合タクシー実証実験結果について、地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価についてを協議事項として予定しております。

以上で第48回地域公共交通会議を終了とする。

以上